

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(1)職務の理解 (6 時間) (6-0)			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもっと実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービスの理解	1.0	1.0	0	<講義内容> ・介護保険による居宅サービス ・介護保険による施設サービス ・介護保険外のサービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	5.0	5.0	0	<講義内容> ・介護サービスを展開する現場の実際 ・介護サービスの提供にいたるまでの流れ ・介護過程とチームアプローチ
(合計時間数)	6.0	6.0	0	

使用する機器・備品等	<p>○第 1 巻の巻末に添付されている DVD は、第 1 巻第 1 章「職務の理解」の科目内容に相当する視聴覚教材である。研修に先立ち、介護職がどのような場で、どのような利用者に対して、どのようなサービスを提供するのか、具体的なイメージをもつことができるように、実践的な取り組みを紹介する内容になっている。</p> <p>○具体的には、①訪問介護、②通所介護、③認知症対応型共同生活介護、④小規模多機能型居宅介護、⑤介護老人福祉施設、⑥障害福祉サービスを取り上げている。</p>
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援 (9 時間) (4-5)			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4.0	1.0	3.0	<講義内容> ・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点 (ICF, QOL, ノーマライゼーション) について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。
② 自立に向けた介護	3.0	1.0	2.0	<講義内容> ・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。
③人権啓発に係る基礎知識(2時間)	2.0	2.0	0	<講義内容> ・人権とは何か ・人権擁護への取り組みの事例
(合計時間数)	9.0	4.0	5.0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(3)介護の基本 (6時間) (3-3)			
指導目標	<p>介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。</p> <p>介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.0	1.0	1.0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）を学ぶ。</li> <li>・介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。</li> <li>・多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1.0	1.0	0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職がもつべき職業倫理を学ぶ。</li> <li>・日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。</li> </ul>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	0.5	1.0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。</li> <li>・利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。</li> </ul>
④ 介護職の安全	1.5	0.5	1.0	<p>&lt;講義内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の特徴をふまえて、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。</li> <li>・介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ。</li> <li>・介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。</li> </ul>
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 (9時間) (1.5-7.5)			
指導目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的, サービス利用の流れ, 各専門職の役割・責務について, その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	4.0	0.5	3.5	<講義内容> ・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで, 制度の目的と動向について学ぶ。 ・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。 ・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに, 制度の財政について学ぶ。
②医療との連携とリハビリテーション	2.0	0.5	1.5	<講義内容> ・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。 ・在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する。 ・リハビリテーションの理念と考え方について理解する。
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3.0	0.5	2.5	<講義内容> ・障害者福祉制度における障害の概念について, その歩みをふまえて学ぶ。 ・障害者福祉制度の基本的なしくみについて理解する。
(合計時間数)	9.0	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間) (3-3)			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	4.0	2.0	2.0	<講義内容> ・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	2.0	1.0	1.0	<講義内容> ・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。 ・会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(6) 老化の理解 (6時間) (3-3)			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3.0	1.5	1.5	<講義内容> ・老年期や高齢者の定義について理解する。 ・老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。
②高齢者と健康	3.0	1.5	1.5	<講義内容> ・高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称：アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解 (6 時間) (3-3)			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1.5	0.5	1.0	<講義内容> ・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	1.0	0.5	<講義内容> ・老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。 ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症のおもな原因疾患の病態、症状について学ぶ。
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2.0	1.0	1.0	<講義内容> ・認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境との関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する。
③ 家族への支援	1.0	0.5	0.5	<講義内容> ・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ・家族とは助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
(合計時間数)	6.0	3.0	3.0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解 (3 時間) (1.5-1.5)			
指導目標	障害の概念と ICF, 障害者福祉の基本的な考え方について理解し, 介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障がいの基礎的理解	1.0	0.5	0.5	<講義内容> ・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・国際生活機能分類 (ICF) にもとづきながら, 「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念 (ノーマライゼーション, リハビリテーション, インクルージョン) について理解する。
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.0	0.5	0.5	<講義内容> ・障害の原因となるおもな疾患を理解する。 ・障害にともなう心理的影響, 障害の受容を理解する。 ・障害のある人の生活を理解し, 介護上の留意点について学ぶ。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1.0	0.5	0.5	<講義内容> ・家族支援は, 家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 ・日本に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。
(合計時間数)	3.0	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。



## シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名	(9) 心とからだのしくみと生活支援技術 (75時間) (63 (6+47+10) -12 (7+5+0))			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
<b>ア 基本知識の学習 (10~13時間)</b>	13.0	6.0	7.0	
①介護の基本的な考え方	3.0	1.0	2.0	<講義内容> ・理論にもとづく介護 ・法的根拠にもとづく介護
②介護に関する心身の基礎的理解	4.0	2.0	2.0	<講義内容> ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6.0	3.0	3.0	<講義内容> ・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
<b>イ 生活支援技術の講義・演習 (50~55時間)</b>	50.0	45.0	5.0	
④生活と家事	6.0	4.0	2.0	<講義内容> ・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、生活支援に関するグループディスカッションを行う。
⑤快適な居住環境整備と介護	4.0	3.0	1.0	<講義内容> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、福祉用具についての利用などを行う。
⑥整容に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	4.0	4.0	0	<講義内容> ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、装うことや利用の意義についてグループディスカッションを行う。
⑦移動・移乗に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	8.0	0	<講義内容> ・移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法 ・利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援 ・移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ・移動と社会参加の留意点と支援 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、

				車いすの移乗などのロールプレイングを行う。
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義内容> ・食事にに関する基礎知識 ・食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ・楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ・食事と社会参加の留意点と支援 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、食事介助などのロールプレイングを行う。
⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	8.0	0	<講義内容> ・入浴・清潔保持に関連する基礎知識 ・入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法 ・楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、入浴介助などのロールプレイングを行う。
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	6.0	0	<講義内容> ・排泄に関する基礎知識 ・排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、排泄介助などのロールプレイングを行う。
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	5.0	3.0	2.0	<講義内容> ・睡眠に関する基礎知識 ・睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ・快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、体位変換、褥瘡予防などのロールプレイングを行う。
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3.0	3.0	0	<講義内容> ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援 <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、誤嚥を防ぐための介助などのロールプレイングや、終末期の心理・介護に関する考え方などのグループディスカッションを行う。
ウ 生活支援技術演習 (10～12時間)	12	12	0	
⑬介護過程の基礎的理解	4.0	4.0	0	<講義内容> ・介護課程の基礎的理解 ・介護課程の目的・意義・展開 ・介護課程とチームアプローチ <演習実施方法> 上記の事項について、グループに分かれ、講師の指導のもと、複数の事例を活用してグループディスカッションを行う。
⑭総合生活支援技術演習	8.0	8.0	0	<講義内容> ・総合生活支援技術演習 <演習実施方法> 上記においては「事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題」の順に、2時間程度で検討を進める。検討は、演習としてグループディスカッションの形式で行う。
(合計時間数)	75	63	12	

使用する機器・備品等	ベッド、車いす、ポータブルトイレ、簡易浴槽など。 白杖、杖、アイマスク、シーツ、枕、衣類、タオル、バスタオル、歯ブラシ、ヘアブラシ、櫛、コップ、スプーン、バケツ、おむつ、温度計、シャンプー、リンス、ドライヤー、ゴム手袋、消毒液、綿棒、爪切り、軍手、ごみ袋、新聞紙、尿取りパット、トロミ剤他。
------------	--

	「介護職員初任者研修テキスト」
--	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

### シラバス

指定番号 268

商号又は名称: アイ・ビリーブ株式会社

科目番号・科目名		(10) 振返り (4 時間)		
指導目標		加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	3.0	3.0	0	<講義内容> ・研修を通して学んだこと。 ・今後継続して学ぶべきこと。 ・根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) <演習実施方法> 上記の事項について、今後継続して学ぶことについてグループディスカッションを行う。
②就業への備えと研修修了後における事例	1.0	1.0	0	<講義内容> ・継続的に学ぶべきこと。 <演習実施方法> ・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例 (Off-JT, JT) を紹介
(合計時間数)	4.0	4.0	0	

使用する機器・備品等	「介護職員初任者研修テキスト」
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。